



色麻町の 地域計画実現に向けた 担い手の経営発展

(「園芸振興」、「地域計画」関連)



課題期間：令和7年度～令和8年度（2か年）

担当チーム員：小池修、大川茂範、尾上智子、
小松知子、佐々木圭悦、◎大津琴乃

1. 課題の背景

色麻町地域計画

町内24行政区単位での協議の末、町1計画で策定

地域内農業の担い手：地区内の集落営農法人、集落営農組織

担い手への農地集積目標：90%

○色麻町農業が抱える問題

高齢化によるリタイアの増加

受け手となる経営体の
労力の限界・後継者不足

地域計画の実現に向けて…

担い手の持続的な経営発展が必要

2.対象と現状

町の中核となる集落営農法人

【1】農事組合法人下高城ふぁあむ

- ・令和6年第54回日本農業賞（集団組織の部） 全国大賞 受賞
- ・全員が作業に従事する「ぐるみ型」農業を展開

現状

水稲の作付面積が年々拡大
ほ場管理の労力が多大

▶ 更なる規模拡大に向け
生産基盤の強化が課題



圃場整備を契機とした法人化を目指す

【2】清水集落営農組合

- ・清水地区では農地整備事業（R4～R11）の工事が進んでいる。
- ・集落営農組合を法人化し、農地を集積する計画

◎R5年～R6年のプロジェクト課題

「農地整備を契機とした地域営農体制の構築」

- ・法人設立の目的や地域農業の将来ビジョンの作成・共有化を支援
- ・法人化へ向けて「発起人会」の設置を支援

▶ R7年中の法人設立
を目指す



波及効果 既存の色麻町内土地利用型農業法人 10法人

3. R7年度の目標

○定性的目標

【（農）下高城ふぁあむ】

- ・乾田直播栽培技術が習得され、より効率的な経営にむけた意識が高まる

【清水集落営農組合】

- ・法人が設立され、高収益作物の試作が円滑に行われる

○定量的数値目標

法人における新規取組数
(R6) 0 ⇒ (R7) 3 ⇒ (R8) 5

	年次	新規取組内容	備考
1	R 7	乾田直播栽培の導入	（農）下高城ふぁあむ
2	R 7	法人設立	清水集落営農組合
3	R 7	高収益作物栽培の導入	清水集落営農組合
4	R 8	経営計画の策定	（農）下高城ふぁあむ
5	R 8	営農管理システム導入の検討	（農）下高城ふぁあむ

4. 活動内容

1. (農) 下高城ふああむ

○乾田直播栽培の導入支援

- (1) 調査ほ場の設置
- (2) 調査結果に基づく生産者への技術指導
- (3) 現地検討会の開催



2. 清水集落営農組合

○法人設立支援

- (1) 法人化に向けた多面的な支援

○高収益作物栽培支援

- (1) 栽培技術の指導



4. 活動内容 ～乾田直播栽培の導入支援～ (農) 下高城ふああむ

(1) 生育調査ほ場の設置

生育調査ほ場を設置し、計5回生育調査を実施
実施日：6/10、6/20、7/1、7/10、7/20
調査項目：草丈、茎数、葉色



対象への技術指導

(2) 調査結果に基づく技術指導

生育調査結果をまとめ、対象や関係機関等に対し、
技術指導を実施

(3) 現地検討会の開催

色麻町、JA、全農と協力し、現地検討会を計3回実施
新規導入を検討する生産者や、JA等の関係者を参集

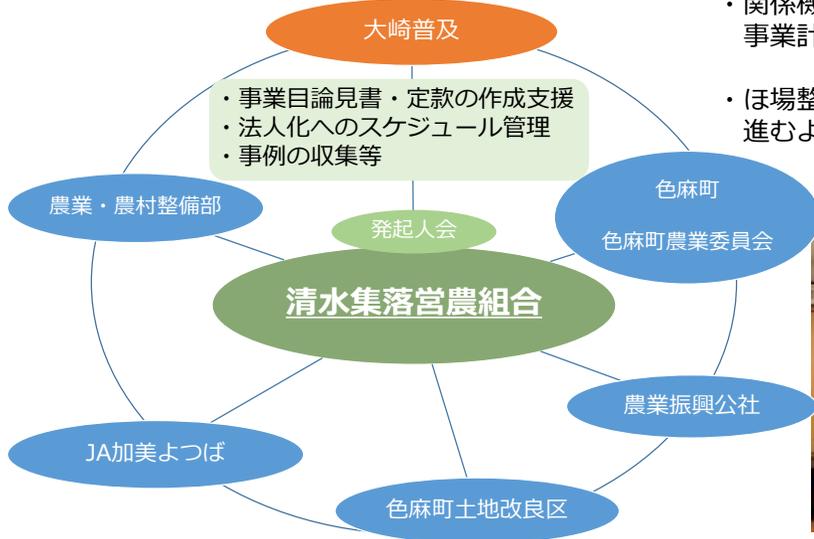
- 4/22 播種作業に関する検討会
- 6/3 雑草管理に関する検討会
- 8/21 収穫前現地検討会



4/22 播種実演会の様子

4. 活動内容 ～法人設立支援～ 清水集落営農組合

(1) 法人化に向けて多面的にサポート



- ・関係機関と密に連携し、法人形態の検討や事業計画書の作成等、法人化を支援
- ・ほ場整備や機構集積協力金の申請が円滑に進むよう、進捗管理について助言



4. 活動内容 ～法人設立支援～ 清水集落営農組合

(1) 法人化に向けて多面的にサポート



- ・関係機関と密に連携し、法人形態の検討や事業計画書の作成等、法人化を支援
- ・ほ場整備や機構集積協力金の申請が円滑に進むよう、進捗管理について助言



4. 活動内容 ～高収益作物導入支援～ 清水集落営農組合

(1) 栽培技術の指導

高収益作物の試作として、さつまいもの栽培を開始（10a、5月30日定植）
 マルチがけや定植の際に普及職員も参加し、苗の定植方法等の技術支援を行った



5. 目標の達成状況

【（農）下高城ふぁあむ】

目標：乾田直播栽培技術が習得され、より効率的な経営に向けた意識が高まる
 ⇒ 生育はとても良好、管理も指導どおり行われている

【清水集落営農組合】

目標：法人が設立され、高収益作物の試作が円滑に行われる
 ⇒ (法人化)

9/8に創立総会を行う予定

登記申請等を経て、9月中には法人設立予定

(高収益作物)

さつまいもを試作中だが、夏の高温・少雨による生育への影響を経過観察中

○定量的数値目標

法人における新規取組数

(R6) 0 ⇒ (R7) 3 ⇒ (R8) 5

	R7新規取組内容	備考	取組状況
1	乾田直播栽培の導入	(農) 下高城ふぁあむ	実施
2	法人設立	清水集落営農組合	9月以降
3	高収益栽培導入	清水集落営農組合	実施

6. 今後の活動

【（農）下高城ふぁあむ】

- 乾田直播栽培の技術指導
⇒ 対象が抱える疑問を解消し、作期を通して技術が習得されるよう引き続き支援を行う
- 乾田直播栽培と移植栽培の作業労働時間や生産コストの比較
⇒ 対象にとって、乾直導入が省力化に繋がっているのかを“見える化”
今後、効率的に規模拡大ができるよう支援
- 栽培管理システムの導入の提案
⇒ より効率的に栽培が行えるよう、アグリノートなどの栽培管理システムの導入の提案

【清水集落営農組合】

- 法人設立後の経営ビジョン作成の支援
⇒ 中長期的な経営計画及び資金繰り計画、将来的な機械導入・設備投資計画など、
専門家派遣等を活用しながら、具体的ビジョンの作成を支援
- 高収益作物の栽培計画の検討
⇒ さつまいもの病虫害防除や適期収穫指導を行う
今後、たまねぎの栽培を導入に向けて技術支援を行う

加美地域におけるさつまいもの 新たな産地形成に向けた生産技術の確立



計 画 期 間：令和6年度～令和7年度

対 象 者：西村竜成（新規）、（株）スマートアグリ庄子（新規）、（有）ライスアーティスト
（JA加美よつばさつまいも生産者：令和6年度11経営体、令和7年度16経営体）

担当チーム員：◎本田修三、小松知子、大津琴乃、小宮なぎさ

課題背景

- ① 背景・需要の高まり
 - ・全国的にさつまいもの需要が拡大
 - ・宮城県・JA全農みやぎが県内産地の生産・流通拡大に着手
- ② JA加美よつばの取り組み
 - ・令和5年度：貯蔵施設を整備し、出荷拡大（作付面積2.2ha）
 - ・令和6年度：キュアリング施設導入 → 生産体制の強化
- ③ 寒冷地での栽培実績と技術蓄積
 - ・寒冷地では栽培が難しいとされていた品目
 - ・加美町の（有）ライスアーティストが長年栽培に取り組み
地域の気候・土壌に適したノウハウを蓄積、高い生産性を実現
- ④ 今後の課題と方向性
 - ・新規生産者が安定した収量・品質を確保することが重要
 - ・（有）ライスアーティストの技術を「見える化」

加美地域に適した栽培技術体系の確立が急務



令和7年度の目標

期待される対象の変化

⇒新規のさつまいも作付者の高品質安定生産が行われ、作付拡大意欲が高まる。

⇒作付拡大の基礎となる、加美地域の気候に合わせた栽培体系が確立される。

⇒新規作付者の収量 実績：R5 1.7t/10a

→ 目標：R6 2.1t/10a (実績：1.6t/10a)

→ 目標：R7 2.5t/10a

令和6年度産の課題

- ・良質な苗の確保が遅れ、生育不良が発生
- ・定植期の少雨により活着不良 → 欠株・生育の遅延
- ・地力の高いほ場では、つるぼけが顕著
- ・作付け経験豊富な(有)ライスアーティストでも初の課題に直面



令和7年度の活動状況

項目1 新規作付者の力量に合わせた栽培技術向上に向けた技術指導①

土壌分析と地力窒素の測定



連作・新規ほ場の土壌分析の実施
地力調査の試行

作付前の施肥指導とJA担当職員との生産者巡回



施肥や定植に向けた指導



令和7年度の活動状況

項目1 新規作付者の力量に合わせた栽培技術向上に向けた技術指導①

新規作付者への移植指導、定植状況の巡回確認

⇒具体的な挿し方など資料だけでは伝わりにくい部分もある



新規作付者の方に直接指導することで活着のポイントが理解された



令和7年度の活動状況

項目1 新規作付者の力量に合わせた栽培技術向上に向けた技術指導②

活着状況・生育の確認



各ほ場とも定植の遅れもなく、
良好な活着を確認
⇒ドローンによる生育記録も実施

現地検討会、生産者同士の情報共有



生産者同士活発な情報交換
新規作付者の疑問や対策が共有



令和7年度の活動状況

項目2 加美地域におけるさつまいも栽培マニュアル（改訂版）の作成

マルチの比較試験



国の事業活用及びメーカーの協力で
マルチの比較試験を実施中

疑問や課題の収集



生産者それぞれの疑問や課題を
聞き取り



令和7年の記録的な少雨と高温

前半の生育は良好と思われたが・・・
多くのほ場で乾燥による萎れが発生、ひどいほ場では葉焼けの障害が発生した。



- ⇒ 様々な対策はあるが・・・
- ・チューブや散水機によるかん水
 - ・水田作を活用した畝間かん水
 - ・深耕や耕盤破碎による根域拡大

etc.

生産者によって実施可能な対策は異なる



未熟な産地として未経験の問題、常態化する異常気象などを踏まえ、
生産上の様々な問題と対策をできるだけ収集し想定することが必要



今後の活動

課題の収集



作を終え、各生産者が感じた個別の課題を把握
他産地の課題の情報収集

マニュアルのブラッシュアップ作業



今後、今作の結果を整理し、
マニュアルの改訂を行う

「新規の作付け者が安心して栽培に取り組むことができる」
「課題と対策を検討し、改善していく取組みが継続できる」 } マニュアル改訂



No.3 中山間地農業の核となる 農産物直売所の組織運営能力向上



R7.6.25 令和7年度通常総会

計画期間：令和5年度～令和7年度

対象名等：農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会理事6人、プラビラボ8人（うちさんちゃん会会員3人）

担当チーム員：◎小林雅文、大和田祥代、尾上智子
小宮なぎさ、羽場蓮

宮城県大崎農業改良普及センター

1 課題の背景

やくらい土産センター（H6設立、H14法人化）の抱える問題点

- 1 高齢化による組合員の減少と経営者（理事）の高齢化
→若い組合員の確保、育成と若手経営者への事業継承
- 2 組合員の減少による出荷数の減少
→品揃え強化、魅力ある品目への取り組み
- 3 出荷数の減少による販売額の減少
→集客力の強化、魅力ある店舗づくり

中山間地農業の核となる農産物直売所の組織運営能力向上

全国の耕地面積、総農家数、農業産出額の約4割を占め、我が国の農業において重要な役割を担っている。

171名の組合員の出荷先。地域おこし協力隊を終了後、地域に定着し土産センターを拠点に活動している若者たちがいる。

この重要な直売所を将来にわたり存続・発展させていくには、経営陣の若返りや法人形態の変更による経営力の強化が必要である。

宮城県大崎農業改良普及センター

1

2 このプロジェクトが目指すもの

(1) 定性的目標

- ①組織運営能力の向上と経営安定
- ②若手構成員が担い手として成長し定着する。
- ③安定的・持続的な組織運営の実現

(2) 具体的な活動項目

- ①品ぞろえと商品力の強化
- ②集客力と顧客対応力の強化
- ③若手生産者とともに取り組む次世代への継承準備

宮城県大崎農業改良普及センター

2

3 これまでの活動内容（令和4年～6年）

(1) 品ぞろえと商品力の強化

R4.11.30 新規作物導入研修会



R6.7.2 土づくり研修会



R6.11.4 高温対策研修会



R7.6.2 若手組合員への栽培指導



宮城県大崎農業改良普及センター

3

3 これまでの活動内容（令和4年～6年）

(2) 集客力と顧客対応力の強化

R4.12.6 おもてなし研修会



R5.3.7 売場改善研修会



R6.2.28 P O P 作成研修会

R7.2.26 売場改善研修会



宮城県大崎農業改良普及センター

4

3 これまでの活動内容（令和4年～6年）

(3) 若手生産者とともに取り組む次世代への継承準備

R5,R6 カミヤングイチ



R5,R6 専門家による指導



宮城県大崎農業改良普及センター

5

4 これまでの活動の成果

(1) 販売額の推移

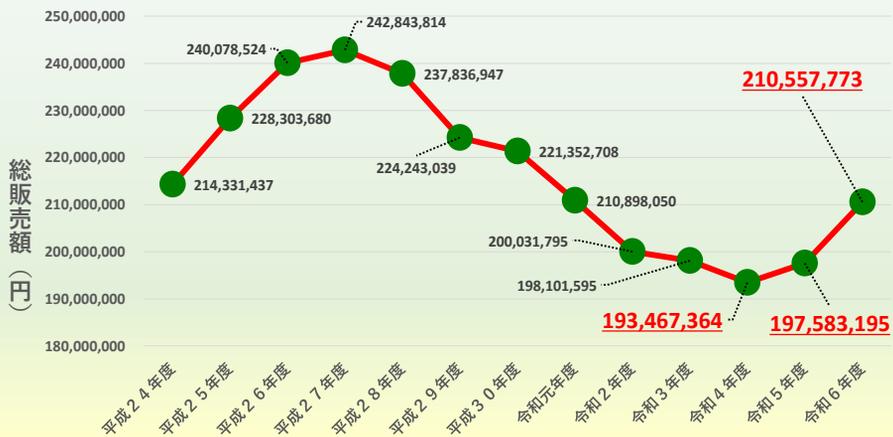


図-1 総販売額の推移 (H24~R6)

4 これまでの活動の成果

(2) 部門別販売額

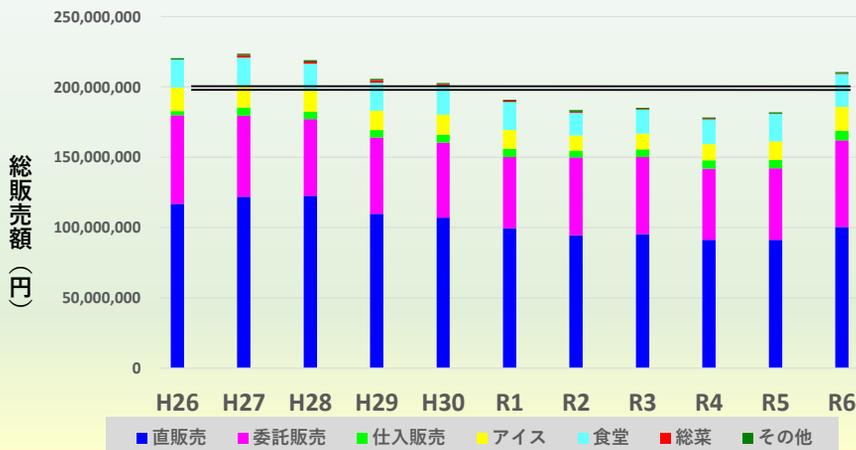


図-2 販売額とその構成比 (H26~R6)

5 令和7年度の活動内容

(1) 品ぞろえと商品力の強化

大丈夫？

出荷して

そのジャガイモ

特化したジャガイモによる食中毒が発生したら、農産物の信用が...

特化したジャガイモには、食中毒を引き起こすソウコンやサコニンなどの有毒物質が多く含まれています。試食としては、おろし、下痢、嘔吐腹痛、呼吸困難などが起こり、ひどい場合は死に至ることもあります。特に地産で影響が強く、2〜3割の悪い収穫状況が発生した報告があります。

栽培者は土壌を十分に耕し、地味に露出しないように管理しましょう。収穫したジャガイモは、選別の目安として種いもを十分に確認し、目視にあてないようしましょう。(目やボールや手袋などを使い、食糧手袋を履くなど)

※芋の収穫でも緑化が進むので、完全に真っ黒にする必要はありません。

出荷前に緑化していないかよく確認しましょう！

! 腐敗したつるむらさきの出荷が見られます！




地際部の腐敗から腐敗

腐敗部に白い腐敗が発生
出芽直後は出荷直前の状態です。

出荷前に腐敗が無いかよく確認しましょう

高温時に強風や降雨に遭うと、その直後にまん延しやすくなります。

対策 ① 排水路の確保や高畝にすることで、降雨後の水はけを良くする。

対策 ② 株間を広げて風通しを良くする。

対策 ③ 被害株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出す。

対策 ④ 窒素過多による軟弱徒長に注意する。

5 令和7年度の活動内容

(2) 若手生産者とともに取り組む次世代への継承準備



R7 総会



第1回勉強会





5 令和7年度の活動内容

(3) 若手生産者と共に取り組む次世代への継承準備

なぜ経営形態の変更が必要なのか

- ①現在の農事組合法人では事業内容が限られている。
- ②迅速な意思決定による経営の健全化が必要。
- ③組合員の条件が制限されている。

～第1回勉強会（8月28日開催）～

令和9年度が理事の改選時期となるので、そのタイミングで株式会社に移行。

総会において2/3の賛成が必要になるので、数回集会を開く。

組合員が100名と多いので、事前に意向調査を行うこと。

5 令和7年度の活動成果（4～8月）

(1) 総会で以下の項目が重点事項として宣言され、承認された。

- ・株式会社化へ向けた勉強会の実施
- ・次世代を見据えた組織体制づくり

(2) 法人形態変更に向けたスケジュール、具体的な取組内容が明確となった。

6 残された課題

(1) 組合員数の減少

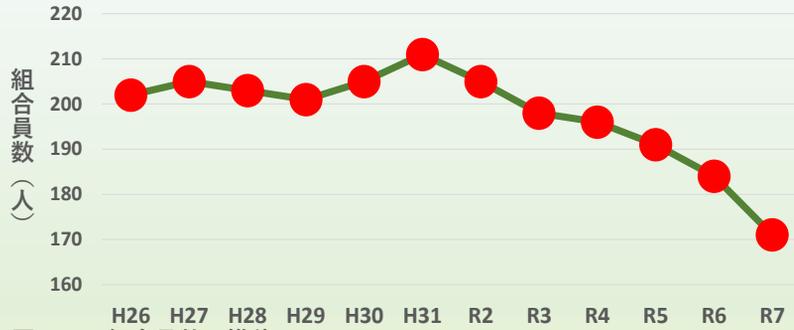


図-3 組合員数の推移

- (2) 後継者の育成と円滑な経営継承
- (3) 安定した法人運営

課題No. 4

若手農業者の経営発展に向けた 水稲乾田直播栽培技術の定着

令和7年度～令和8年度



対象名（波及先）

東部師山営農組合 **大友康晴**、(株)三本木グリーンサービス **渋谷貴司**
(水稲乾田直播の導入・取組拡大を志向する担い手経営体)

担当チーム員：◎大川茂範、宮本晴恵、小池修、佐々木圭悦、
門脇正好、羽場蓮

背景

- 管内の大豆輪作体系の中で水稲乾田直播栽培の取組が拡大
R4：17ha → R5：36ha → R6：86ha
※20～40代の若手による取組が目立つ
- 東部師山営農組合 **大友康晴氏**（29）
 - ・肉牛の一貫個人経営＋営農組合の中心オペレーター
 - 現状：子実用とうもろこし→小麦→大豆→水稲乾田直播の水田輪作、移植水稲、牧草の作業を一手に担う
 - 目標：除草管理を中心に乾田直播の肥培管理全般の技術向上
経営上は部門間競合の少ない作業計画、効率的労務管理
- (株)三本木グリーンサービス 役員 **渋谷貴司氏**（30）
 - ・法人代表父の補佐＋同年代従業員3名と大豆・水稲作業に従事
 - 現状：大豆後作は耐倒伏性「萌えみのり」飼料用米の乾田直播
 - 目標：大豆後作での主食用米「ササニシキ」の乾田直播技術の習得
経営移譲に備え、年間各作業の勘所理解、業務管理能力を磨く

活動内容

- 1 **水稻乾田直播栽培の実証ほ運営と技術指導**
 乾田直播の課題解決を目的とした技術実証ほを設置
 データに基づく栽培管理指導 ⇒ **着実な技術定着・向上**
- 2 **営農管理システムの活用支援**
 日常の作業項目を見える化
 ⇒ 労力配分の合理化、ほ場管理業務の体系的理解
 ⇒ 現況把握・分析に基づく**判断能力の育成**
- 3 **技術交流支援**
 技術実証展示ほ情報の発信、現地検討会・研修会の開催
 ⇒ 乾田直播導入・取組拡大を志向する担い手経営体への**栽培技術や管理手法の波及**

数値目標

大豆後水稻乾田直播（主食用米）の**平均反収**
 R6：510kg → R7：**525kg** → R8：540kg

活動内容 1 水稻乾田直播栽培の実証ほ運営と技術指導

■技術実証ほ

大豆作後のササニシキの乾田直播栽培

生産者	地区	土壌型	前作	施肥	品種	播種日 播種量	面積
東部師山 営農組合	大崎市 古川 師山	細粒質普通 低地 水田土	大豆	基肥無施用 →生育に応じ追肥	サ サ ニ シ キ	4月28日 乾籾 5.5kg/10a	79a
						88a	
(株) 三本木 グリーン サービス	大崎市 三本木 南谷地	典型腐朽質 泥炭土	大豆 乾直 水稻	無施肥 乾直用一発型 →生育に応じ追肥		4月10日 浸種籾 5kg/10a	81a
						65a	

⇒ いかに倒伏させずに**収量・品質**を上げることができるか？

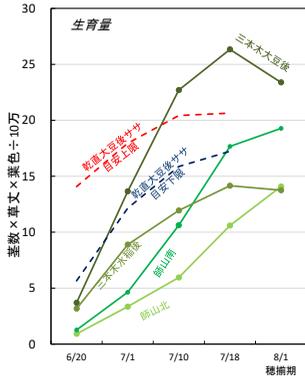
■技術指導

土壌肥沃度、雑草発生、水稻生育等の**調査結果を基に技術指導**を実施

- ⇒ **栽培技術の習得**
- ・ 基肥・追肥の判断
 - ・ 播種量の調整
 - ・ 除草剤の選択
 - ・ 倒伏軽減剤の使用判断 等

活動内容1 水稲乾田直播栽培の実証ほ運営と技術指導

指導事例) 水稲の生育量＝倒伏診断指標を基にした施肥判断



※「乾直大豆後ササ」の目安は石巻市R4
～R6 (収量621～660kg/10a) の生育量

稲穂形成期(7/18)の生育量(単位:1000kg/ha)											稲穂形成期(7/10)の生育量(単位:1000kg/ha)												
圃名	区画	生育量	圃名	区画	生育量																		
R7三本木大豆後	1	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	R7三本木大豆後	1	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2		
	2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2		2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2		
	3	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2		3	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	
	4	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2		4	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2
	5	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2		5	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2

東部師山ほ場の幼穂形成期(7/18) 生育量は危険域にない⇒ **施肥可能**

三本木大豆後ほ場の幼穂形成期(7/10) 生育量は目安上限を超え倒伏危険度Ⅲ
⇒ **施肥不可能・倒伏軽減剤の散布を検討**

活動内容2 営農管理システムの活用支援

営農管理システム: ほ場情報や作業記録、生産データなどをクラウド上で一元管理し、農業の効率化や品質安定、リスク管理を支援するITシステム

導入・活用を支援した営農管理システム・スマート農業技術



⇒スマホGPSを利用した作業記録の自動入力や分析が可能で、機械メーカー等を選ばない。



⇒衛星データとAIを活用してほ場ごとの状況を分析し、施肥や防除などの栽培管理をサポートする。



⇒(株)クボタの農機との連携した作業記録の自動入力や分析が可能。



ドローンRGB画像の活用



⇒衛星データよりも鮮明なほ場の上空からの画像データを基に生育量の変化を把握する。

活動内容2 営農管理システムの活用支援



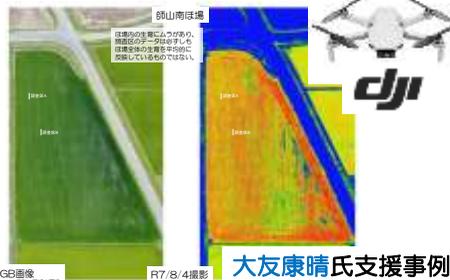
大友康晴氏導入



大友・渋谷両氏導入



ドローンRGB画像の活用



渋谷貴司氏導入

大友康晴氏支援事例

活動内容3 技術交流支援

技術実証展示ほの情報発信 「大崎稲作情報」に展示ほの生育情報を掲載

管内生産者・関係機関への配布

普及センターHPでの公開

調査地	品種	生育日	7月1日				生育日	生育日
			葉数	葉面積	葉重	葉重		
日本水稲	水稲	5-21	144.5	490.0	48.0	33.0	0.0	0.7%
	水稲	5-21	141.7%	482.7	47.8	32.8	0.0	0.7%
山形県	水稲	5-21	140.7%	479.6	47.8	32.8	0.0	0.7%
	水稲	5-19	137.8%	470.6	47.8	32.8	0.1	0.7%
山形県	水稲	5-19	137.8%	470.6	47.8	32.8	0.1	0.7%
	水稲	5-19	137.8%	470.6	47.8	32.8	0.1	0.7%
山形県	水稲	4-28	40.0	34.4	32.0	4.0	0.0	0.4%
	水稲	4-10	37.0	31.0	29.0	2.0	0.0	0.3%
山形県	水稲	4-10	36.4	30.0	27.8	2.2	0.0	0.3%
	水稲	4-10	36.4	30.0	27.8	2.2	0.0	0.3%

活動内容3 技術交流支援

8月27日 三本木GS展示ほ場での**乾田直播栽培**収穫前研修会



大豆後ほ場



水稲後ほ場

支援対象の動き・波及効果

1 水稲乾田直播栽培の実証ほ運営と技術指導

調査データに基づく栽培指導

- ⇒ 指導に基づき、各管理作業の**判断基準への理解**を深めた。
- ⇒ 経営主である各父親にとっても、**意思決定の判断材料**となった。

2 営農管理システムの活用支援

日常の各作業項目を見える化

- ⇒ 両者とも各システムを導入し、**操作性や有効性を体感**できた。
- ⇒ 当初入力は順調であったが、繁忙期には滞るという**課題が見えた**。
- ⇒ 実際に利用したことで**自身の営農スタイルに合った選択**ができる。

3 技術交流支援

展示ほ情報の発信、研修会の開催

- ⇒ 導入・取組拡大を志向する担い手経営体やこれを支援する
市町・JA等関係機関の**乾田直播関係へ関心が一層高まっている**。

年度後半・今後の活動予定

- 1 水稲乾田直播栽培の実証ほ運営と技術指導
収量調査、調査結果とりまとめ、
今年度実績と次期作に向けた対象者との打合せ
- 2 営農管理システムの活用支援
システム入力状況の確認、水稲作業実績の振り返り
次年度取組目標の策定支援
- 3 技術交流支援
技術情報の継続発信、実証ほ成績検討会の企画・開催